

平成 29 年度学内教育 GP プログラム事業経費計画書（継続型）

学 長 殿

申請者（プログラム代表者名）

氏 名 浜口 順子 印

(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

職名 生活科学部長

氏名 香西 みどり 印

事業名称	乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築（ECCELL） (人間発達教育科学研究所 保育・教育実践部門)
取組代表者名 担当者名	基幹研究院 人間科学系 教授 浜口順子 基幹研究院 人間科学系 教授 小玉亮子 基幹研究院 人間科学系 教授 柴坂寿子 基幹研究院 人間科学系 准教授 刑部育子
事業内容	<p>本事業 ECCELL は、平成 22 年度～27 年は特別経費を受けて、社会人プログラムの企画実施、および乳幼児教育に関する学部授業を附属園と協力して行うカリキュラムを企画運営してきた。</p> <p>29 年度は、従来の事業の一部を引き継ぎつつ、下記の 5 つの教育関連事業に取り組む予定である。なお、この事業のうち、ア)、イ)、エ) は本学第 3 期中期目標・計画の【K26】【K30】に関連するものである。</p> <p>ア)【継続】社会人対象の乳幼児教育・保育に関する授業（生活科学部特別設置科目）の企画、実施、広報、関連事務作業。</p> <p>イ)【継続】上記ア)に関する評価研究</p> <p>ウ)【新規】大学院レベルの社会人プログラムおよび幼稚園教職課程の教員免許状更新講習の企画、準備</p> <p>エ)【新規】平成 28 年度～、お茶大こども園における保育の質向上、および子育て支援事業の計画、実施、評価に関する研究（人間発達教育科学研究所の保育実践研究部門に所属）</p> <p>オ)【継続】季刊誌『幼児の教育』の企画および編集に関する事務（浜口順子奨学金をフレーベル館から取得中）</p> <p>これら 5 つの事業のうち、ア)・ウ)に関連して、事業経費の申請を行う。</p> <p>■ア)は、現在受講している社会人学生（科目等履修生）からの継続への要望が多く、受講料収入による還元が期待できる。来年度開講予定は、下記の科目（仮称）である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ECCELL 子ども学ゼミⅢ・Ⅳ（前期・後期各 1 単位、専任教員 1 名・非常勤 2 名計 30 時間が共同で担当する） ・ ECCELL 乳幼児教育論Ⅲ・Ⅳ（前期・後期各 1 単位、非常勤が担当）

	<p>この4科目は特別設置科目として、学部生も単位取得可能であり、学部生と社会人が共に学び合うユニークなアクティブラーニングの場としてこれまで成果を挙げてきた。28年度は、27年度まで ECCELL が開講していた授業数よりも縮小し前期2、後期2単位で継続したが、29年度も同様に継続させる。</p> <p>非常勤講師2単位分の不足は、副学長（榊原先生）の非常勤枠から一部補助を受けた。</p> <p>■ウ）は平成30年度に幼稚園教職課程が文教育学部人間社会科学コースにおいて体制強化されることを受けて、社会貢献の一環として、教職科目更新等の公開講座の準備を行う。</p>
積算内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費（非常勤講師） <ul style="list-style-type: none"> 基本給 @5,700 円×2h×15 回×2 人=342,000 円 交通費 @1,000 円×15 回×2 人=30,000 円 (労災) 保険料 @549×2=1,098 円 (小計: 373,098 円) ・人件費 (AA: 学生募集、申請書類整理、学生との書連絡等) <ul style="list-style-type: none"> 基本給 @1,200 円×6 h×12 ヶ月= 86,400 円 通勤手当 @1,000 円×12=12,000 円 (労災) 保険料 @294 円 (小計: 98,694 円) ・謝金 (授業資料整理、配布等) <ul style="list-style-type: none"> 資料整理等 @1,100 円×25h=27,500 円 <p>計: <u>499,292 円</u></p>

平成28年度 学内教育GPプログラム事業（継続型）の
現在の進捗状況と今後の事業計画

取組代表者 浜口 順子

事業名称	乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築（ECCELL）
現在の進捗状況	<p>* 28年度に助成を受けている課題については、事業計画に即して成果を詳細かつ客観的に記載してください。</p> <p>（1）社会人プログラムについて ECCELLプログラムの後継として開講した社会人プログラム(学部特別設置科目)の科目と受講者数は下記の通りである。</p> <p>【4～9月期】 「ECCELL 子ども学ゼミⅠ」(集中講義：1単位) 23名(うち社会人22名、学部学生1名(聴講)) 「ECCELL 乳幼児教育論Ⅰ」(集中講義：1単位) 24名(うち社会人23名、学部学生1名(履修)) 出願者実数は33名(ECCELLからの継続27名、新規6名))</p> <p>【10～2月期】 「ECCELL 子ども学ゼミⅡ」(集中講義：1単位) 13名(いずれも社会人) 「ECCELL 乳幼児教育論Ⅱ」(集中講義：1単位) 23名(うち社会21名、学部学生2名(聴講)) 出願者実数は26名(28年度前学期からの継続24名、受講中断後復帰1名、新規1名)</p> <p>継続受講希望者が多い。科目等生申し込み時期が短く、開講よりもかなり前に締め切られるため、数名の方が申し込みが遅れてしまった。大学院レベルのリカレントプログラム及び履修証明プログラムを検討するために、人間発達教育科学研究所が文京区の幼稚園、保育所対象に、<u>学び直しプログラムへのニーズ調査を行い、お茶大こども園と連携して研修プログラムとの連携可能性も検討していく計画を立てている。</u></p> <p>（2）お茶大こども園における保育の質の研究等 人間発達教育科学研究所に、教育実践および保育実践に関する研究部門を立ち上げ、7月末に開催されたヒューマンライフイノベーション開発機構キックオフシンポジウムにおいて現状報告を行った。教育実践グループと保育実践グループはそれぞれの研究プログラムを推し進め、月1回程度の研究所コア会議において情報交換を行い連携に必要な体制を構築している。 こども園に関する運営会議(年に数回)が発足し、大学・附属幼稚園・ナーサリーの連携が促進されている。研究進捗のためには大学とこども園現場の研究を連携して行うワーキング会議(月1回程度)を実施している。こども園の</p>

	<p>園内研究会にも、大学の教員や院生が参加し交流を行っている。大学および附属幼稚園、いずみナーサリーと共同してワークショップ型職員研修を行ったり、こども園の給食試食会に附属幼稚園・ナーサリーの職員も参加したりしている。8月には、大学と附属学校の美術系教員、教職課程の学生、附属幼稚園・ナーサリー・こども園職員が共同して、ライフ×アート展をステューデントコモンズで開催し、職員やこども園の子どもたちとワークショップも行った。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科学部（発臨）および大学院（保育・児童学コース）の<u>学生をお茶大こども園においてインターンシップで受け入れを始めた。</u> ・季刊誌『幼児の教育』の企画発刊を行い、「こども園をつくる」という連載を組み（115巻3号、4号）フレーベル館から発売している。
<p>今後の事業計画</p>	<p>(1) お茶大こども園における子育て支援事業の推進にかかる調査研究 平成29年1～2月に、区内幼稚園及び保育所を訪問し、アンケートおよび聞き取りによる予備調査を行う予定である。</p> <p>(2) お茶大こども園の初年度研究総括 平成29年3月には研究所主催、文京区後援によるお茶大こども園研究公開シンポジウムを予定している。</p> <p>(3) 社会人プログラムの評価研究 日本保育学会大会等で発表予定である。</p>

※ この様式は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。